

令和6年度 学校評価書【山形県立新庄神室産業高等学校真室川校】

教育目標「心豊かでたくましく教養ある人間を育てる」

校訓（自律・誠心・挑戦）を根底に据え目指す学校像

- 1 課題解決のために自ら行動する力を育成する学校
- 2 一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校
- 3 心身の健康と安全に努める学校
- 4 地域の活性化に貢献できる学校

自己評価および学校関係者評価の基準	
A：達成	B：概ね達成
C：やや不十分	D：不十分

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
1	教育方針 学校経営	① 教育方針や学校経営については、生徒・保護者・教職員から概ね高い評価と理解が得られている。ただし、学習に困難を抱える生徒が微増していることから、支援のあり方について検討が必要である。 ② キャンパス制については、運営委員会を中心に、本校・真室川校相互の生徒及び職員の活動がより充実したものになるよう努めてきた。生徒会行事における交流や部活動における合同チームの編成などが実現した。 ③ 真室川校魅力化地域連携協議会のもと、町からの人的支援・経済的支援を受けながら、様々な教育活動を展開させていただいた。地域貢献交流活動や地域の方々を講師に招いた各種講話、インターンシップ等を通し、「地域とともにある学校」づくりを推進することができた。 ④ 全教職員による連携のとれた指導体制のもとで、組織的かつ系統的なキャリア教育を実施することができた。	B	① ICT 機器を活用した働き方改革と、業務の整理統合を引き続き推進することで、生徒と向き合う時間の確保に努める。特に、学習に困難を抱える生徒たちに対して、個別指導を行う時間を確保し、自立に必要な基礎学力の養成に努めていく。 ② 真室川校魅力化地域連携協議会の協力をいただきながら、「魅力ある県立高校づくり」を推進する。町の文化活動や小・中学校との連携をさらに深め、真室川校の教育活動をより魅力的なものにしていく。 ③ 「一人ひとりがキラリと光る真校」づくりと「地域とともにある学校」づくりに向けた取組みを継続する。真室川町との連携を密にし、地域行事への参画や「地域きずな授業」等を通じた地域交流を行うとともに、全校ボランティアなどの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいく。	B	①地域の方々とのつながりを大切にしながら、様々な地域貢献・交流活動を行い、生徒が活躍する様子を学校ホームページや真校だよりで紹介するとともに、マスコミを積極的に活用して真校の魅力を発信してくれている。今後も、真校の魅力ある活動を継続して発信し続けて欲しい。 ②学習に困難を抱えている生徒がいるようなので、少人数体制の利点を活かして、生徒個々の能力を伸ばすよう指導して欲しい。 ③地域行事への関わりを今後とも継続して頂きたい。
2	学習指導	① ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、思考力・判断力・表現力を育む言語活動を積極的に授業に取り入れ、アクティブラーニングを実践することができた。 ② 個別指導を充実させ、学習のつまづきを放置させず、わかるまで取り組む粘り強さを伸長させることができた。 ③ 学年や生徒保健課と連携し、生徒に健康管理に対する意識を高めさせ、出席率を向上させることができた。 ④ 総合的な探究の時間では生徒が自分と地域とのかかわりについて理解を深めることができた。 ⑤ 年間の図書の貸し出し冊数生徒一人平均6冊以上を、達成することができなかった。	B	① 現行の観点別学習評価に適合した授業展開、授業改善について、研究授業や研修会を通して継続して研究していく。 ② ICT をさらに効果的に活用し、生徒の協働的な学びを推進し、情報活用能力を向上させる。 ③ 生徒に学習支援を行ったり、質の高い学習に取り組ませたりする時間を創出し、個々の生徒に適する学習指導の充実にも努める。 ④ 生徒にとって楽しい図書館づくりをさらに進め、多読賞を受賞するような読書が好きな生徒を増やしていく。	B	①学力の定着が思うように進んでいないようだ。個々の能力差が大きく、先生方が大変苦勞して指導されているとも聞いている。個別指導を充実させるなどして根気強く対応して頂きたい。 ②図書館の利用率が低下しているようだ。魅力ある図書館にするために、展示方法などを検討する際に生徒たちの力を借りてみてはいかがか。 ③読書活動の推進のため、生徒の要望を反映させた蔵書購入を実施しているようだが、今後もこの取組を継続して行って欲しい。
3	進路指導	① 「キャリア学習講座」や「ソーシャルスキル学習講座」は進路意識の高揚に一定の成果があった。 ② ハローワーク等外部機関と連携したキャリア講座を実施し、多様化する進路に対し、生徒一人ひとりに対応した手厚い進路指導を行うことができた。 ③ リーディングスキルテストの結果を踏まえた指導や授業改善について、継続して研究していく。 ④ 面談週間を活用しながら全職員が生徒理解に努め、個々に応じた適切な支援を行うことができた。 ⑤ 企業見学や企業ガイダンスに参加したことで、地域の産業の理解、勤労観の育成につなげることができた。	B	① キャリア教育を軸とし、3年間を見通した進路指導を、職員共通理解のもと推進する。 ② 企業見学、インターンシップの協力体制の継続と充実を図るとともに、町の資格取得支援を活用し、キャリア教育のさらなる充実を図る。 ③ 教科学習の土台となる必要な語彙力を確実に養成するために、論理言語力検定（Literas）ワークブックを朝学習に取り入れる。 ④ ハローワーク等外部機関と連携したキャリア講座を継続し内容の充実をはかる。 ⑤ 早期離職対策として、コミュニケーション力やソーシャルスキルの向上を目指した指導を継続する。	B	①コミュニケーション能力は社会に出ても非常に重要になる部分かと思いますが、日頃からスキルの向上を目指して継続した指導をお願いします。 ②地元の企業や事業所の理解と協力を得ながら、充実したキャリア教育を行って頂いている。この取組を継続して頂き、地域で活躍できる人材を育成して下さるようお願いしたい。 ③就職先が内定した段階で、該当生徒の特性等を詳細に先方に伝える機会があったら、離職を防ぐ対策にならないだろうか。

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
4	生活指導	① キャリア教育に基づいた生活指導により日常のあいさつや身だしなみ、いじめ防止などへの指導は行えたが、重大な問題行動が起きたことは非常に残念である。 ② キャリア教育に基づいた生徒会指導が維持できた。（全校ボランティア、体育祭、真校祭、リーダー研修会、執行部会、生徒集会など） ③ 縦割り班による活動が効果的に行われ、ボランティアをはじめとする行事及び諸活動で成果が上がった。 ④ さなぶり手仕事まつり、ホワイトアスロンなどの大きなイベントに参加、真校祭の一般公開により地域に貢献することができた。中止になった真室川祭踊りパレードにおいても、真中生との合同講習会やコンテストを実施できた。 ⑤ 委員会活動の解体や生徒会誌「落」の休刊により、生徒一人一人の負担を軽減できた。キャリア教育に基づいた生活指導が維持できた。（日常のあいさつや身だしなみ、問題行動・いじめ防止などへの指導）	B	① 現行の指導レベルを維持するため、年度初めに行っている「当校生徒指導の理念」の確認を継続する。 ② いじめやスマホの利用について新入生に対する早期の指導を行い、問題行動の未然防止に努める。 ③ 縦割り班活動を継続し、様々な場面で取り入れ、学年間交流を通じたコミュニケーション力の育成を図る。 ④ 地域貢献意欲が高い当校生徒に対し、次年度も生徒会スローガン「地域を愛し地域に生きる」が具現化できるようサポートしていく。 ⑤ 部活動任意加入制により、未加入の生徒が出てきた時、それに代わる具体策を提示し、加入未加入に差が出ないように指導していく。 ⑥ 真校祭実行委員会やクラスマッチ実行委員会の企画・運営がスムーズにおこなわれるよう、生徒会を中心に全校生徒で協力し合えるような体制を整える。	B	① スマートフォンやゲームなどの使用時間が長くなり、生活習慣や体調の管理ができていない生徒が増えているようだ。しっかりした社会人になるために、基本的な生活習慣を身につけられるよう指導して欲しい。 ② 普段の言葉遣いや、コミュニケーション能力の育成を図る指導を充実させ、自分の意見を相手にしっかりと伝える力をつけさせて頂きたい。 ③ 学校を訪問させて頂いたときの生徒のあいさつ・受け答え・表情・態度や、メディアに取り上げられた生徒の活躍の様子を拝見させて頂くと、真室川校の生徒たちは大変素晴らしいと感じている。
5	健康安全	① 全校生への「命の教育」、「交通安全」、「防犯・薬物乱用防止」講話を行い、心身の健康について意識を高めることができた。 ② スクールカウンセラー（ＳＣ）による１年生全員面談を実施し、相談しやすい環境づくりおよび問題の早期発見に努めた。カウンセラーによる見立ては、生徒の特性理解につながり有効であった。 ③ スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）派遣事業を活用し、問題を抱える生徒への支援をより効果的に行うことができた。医療機関、行政機関との連携・協力がこれまで以上に進んだ。 ④ ストレスチェックを実施し、心身の健康について振り返らせるとともに、高ストレス者を把握し、相談活動に活かした。	B	① メンタルヘルスに関する正しい知識と対処法の習得を目指した保健指導に重点を置き、不調の未然防止を図る。 ② 学年での適時的なケース検討会を行い、特別支援の体制をさらに整える。 ③ 特別支援学校や外部支援施設との連携・協力体制の構築を継続検討する。 ④ ＳＣおよびＳＳＷと連携し、問題を抱える生徒への支援を早期に、組織的に行っていく。 ⑤ 緊急連絡体制を周知徹底し、学校行事等での事前指導を行い、事故の未然防止に努める。 ⑥ 基本的な生活習慣を身につけさせ、健康管理の意識向上に努める。	B	① 家族の協力も必要だと思いますが、スマートフォン等のゲームによる生活リズムや生活習慣の乱れが学校の成績や健康面に現れます。規則正しい生活が送れるように指導をお願いします。 ② スマートフォンやゲームなど、中毒性のあるメディアや機器の取り扱いについて、学校での使用ルール等を生徒自身で決定していく仕組みを作ってはいかがか。
6	地域連携 その他	① 今年度は真室川祭踊りパレードは中止となったが、全校清掃ボランティアは２回実施することができ、生徒の勤労観を育成することができた。 ② 学校行事の様子やボランティア活動、校内でのあいさつ運動等の様子を、地域住民に知ってもらう手立てとして学校だより「ふきのとう」やホームページの更新を定期的に変更できた。また、魅力化コーディネーターとの連携による報道等により、ＰＲ効果が高まった ③ 就学支援金や資格取得支援、また、学校行事等にスクールバスを利用させていただくなど、学校及び生徒に対して、町から大きな経済的支援を受け、充実した教育活動を行うことができた。 ④ 同窓会総会を理事会に変えて開催した。引継ぎなども行えず、来年度以降に課題を残した。	B	① 地域行事参加やボランティアなど、意識して丁寧に生徒の勤労観の育成に努める。 ② 魅力化コーディネーターとの連携をさらに密にし、学校の魅力化発信力を強化する。 ③ ＰＴＡ役員体制及びその運営について大きく見直した役員体制による、さらにより効果的な運営活動を検討する。 ④ 同窓会の引継ぎについて当番幹事同士の引継ぎがここ数年途絶えているため、実施可能な行事が円滑に進むよう、連携を深める。 ⑤ 学校評価アンケートの集計作業について教職員・保護者双方の負担が軽減されるように、ICT機器を活用し個人で入力できるシステムにし、入力の手間が省けるようにすると同時に、情報の流れが混乱しないような手立てを工夫する。 ⑥ 学校連絡システムの活用について「さくら連絡網」の加入率と活用が低下しないよう、引き続きシステムについて課員で研修し、複数で情報を発信できる体制にする。	B	① 「地域活動」の重要なポイントは「継続」だと思います。今後も真室川校の生徒たちの活躍を大いに期待しています。 ② 地域行事等に積極的に参加して頂いていることに感謝します。これからも地域に密着した活動を展開してくれることを臨みます。 ③ 生徒会メインスローガンの「地域を愛し、地域に生きる」を実践したボランティア活動や町の各種イベントへの協力、地域の伝承野菜の栽培と真室川あさひ小学校の児童との交流など、地域交流や地域理解につながる活動をさらに充実させて頂きたい。 ④ 「地域きずな授業」は地域の方々から大好評です。準備等大変だと思いますが、地域の方々との交流が図られているので是非継続して開催していただきたい。 ⑤ 生徒・教職員ともに人数が減少しても、やらなければならないことはなかなか減っていかないようなので、負担を軽減できるシステム等あれば導入していくと良いのではないかと。